

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 5日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0801027
	②		福祉	H2001054
	③		経営	H0201025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	大森西第二保育園			
事業所連絡先	〒	143-0015		
	所在地	東京都大田区大森西4丁目13番11号 101号室		
	TEL	03-3765-4116		
事業所代表者氏名	関口 由季子			
契約日	2023年 5月 29日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 7月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 10月 25日			
自己評価の調査票配付日	2023年 7月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 10月 25日			
訪問調査日	2023年 11月 1日			
評価合議日	2023年 11月 1日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和5年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 2月 22日

事業者代表者氏名

関口 由季子

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)働く父母が安心して預けられる保育園に 2)子ども達が生き生きと育つ集団生活と教育の場としての保育園に 3)職員が働き甲斐のある職場に 4)地域の子育て支援を担える保育園に 5)一人ひとりの存在とその人権を尊重する</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に情熱を持っている人 ・人と関わることが好きな人 ・場に応じた柔軟な対応ができる人 ・組織の一員として業務を担える人 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と安全の保障 ・子どもの権利の尊重 ・子どもの主体性を重視した柔軟な保育 ・保護者の状況に応じた温かい支援 ・地域への貢献

調査対象

2023年7月25日現在の施設の利用者(保護者) 101世帯(利用者総数 118名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担当が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

118

101

101

64

63.4

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(94%、60人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
(97%、62人)

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか

問3. 園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか
(各々 94%、60人)

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	62	1	1	0
園庭はあるけれど、近所の公園に行ったり身体をたくさん動かせるようにしてくれている。小さい月齢の子達は危ないので、目が届きやすいようにグループに分け、散歩に出掛けているのも安心する。 家庭では時間がなくてさせてあげられない分、身体(指先等)を動かすことや、色々観察したり体験させてくれたりするので、とても成長の発達を手助けしてくれて助かります。 などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	60	4	0	0
製作や泥んこ遊び、虫探しやカブトムシ飼育 毎日楽しみに保育園に行く姿が見られます。 色のついた水を使ったりシールや絵本など興味が湧くように工夫されていると思います。 家ではなかなか思いつかない遊びや、出来ないことをしてくれるのでありがたいです。 夏場の湯水遊びや泥んこ遊び、寒天や氷、片栗粉を使うなど工夫が多く、楽しいということを話してくれます。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	60	4	0	0
栄養のバランスと月齢に合わせた形状になっていると思います。 友達と一緒に食べるのでおかわりして栄養を取ってきてくれるのでありがたいです。 日々家庭では作らないような料理・季節の食材も出してくださって、特に行事食は見た目の楽しさまで工夫が凝らされていると思います。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	58	6	0	0
<p>近くに公園がたくさんあるので、色々な公園に行けるとよりよいと思う。 交通ルールを教えてくれるので家でも同じように教えていきたいです。 遠くの公園に行く機会が少ないという保護者からの意見もありますが、園庭も広いので園庭や裏の公園で充分と感じています。 交通ルールは家庭でしっかりと教えて行こうと思っています。 などの意見があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	51	8	0	5
<p>毎日同じ時間に仕事が終わらない為、柔軟な対応がとてもありがたいです。 区立の頃より柔軟に対応いただけていつも大変助かっています。 とても柔軟で助かります。 などの意見があった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	51	10	3	0
<p>民営化前の方が脱走してる子が少なかったが、最近では改善してきていると思います。 と言った意見があった。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	49	12	2	1
<p>園だよりや組だよりでわかりやすく記載されています。 日程は前もって余裕をもって知らせてくれて、直前にも知らせてくれて、助かります。 コロナ禍で運動会が学年ごとになり短時間で行えて良いと思います。全学年で大規模に行うのを希望する保護者もいると思いますが、学年ごとに短時間でこれからも行って欲しいです。 などの意見があった。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	51	11	2	0
<p>連絡帳に記載したり直接相談したことに対して必ず回答して下さります。小さな悩みも話しやすいです。 忙しい中連絡帳も日々丁寧に書いてくださって、上手い出来ないことも励ましていただき心強く感じています。 帰りに1日の様子を簡潔に伝えてくださるのはとても嬉しいです。 などの意見があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	50	13	1	0
<p>支援員さんが丁寧に消毒や清掃してくれているので安心しています。 園舎自体は古いのですがいつも清潔にいただいていると思います。 などの意見があった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	53	9	2	0
<p>親に対しては丁寧に接していると感じる。 みなさん優しいし、フランクで話しやすいです。先生達の個性が出るTシャツとか見るのが密かに楽しいです。 などの意見があった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	53	9	2	0
門の付近で転んで擦りむいたとき、帰ろうとしてた職員がわざわざ戻ってきて絆創膏を貼ってくれました。と言った意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	43	14	2	5
先生にもよるがちゃんと両者の意見を聞いて対応してくれる先生もいる。と言った意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	58	5	1	0
子供の目線になって考えてくれて、子供の様子に合わせて声かけをしてくださります。子どもが保育園をとて好きなので、尊重してくれているからこそだと思っています。などの意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	53	7	2	2
意見の記載なし。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	52	10	1	1
ただ民営化前の方がもっと説明をしてくれてた。と言った意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	57	4	2	1
改善傾向です。特に今までないのでわかりません。などの意見があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	32	23	3	6
特段困った事が無いのでわかりません。そういった場面がなかったです。などの意見があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念や園目標の理解の深化は、日常目にする場所への掲示等の工夫を期待する 法人や園が目指していること(基本理念、運営及び保育方針、園目標等)は新入職員オリエンテーションで説明しており、事業計画や全体的な計画の説明の際にも職員に対して説明している。なお、運営方針や園目標は玄関の上部に小さい文字で掲示しているが、事務室やクラスには掲示がない。玄関の掲示は読みにくく、保護者や職員に一目でわかる大きな掲示が期待される。職員調査でも職員に理解させる取り組みや職員自身の理解度に対する評価は高くない。保護者に対しては重要事項説明書や園のしおり等に記載され周知している。	
	園長は人事評価・教育、園業務の統括、対外関係等にリーダーシップを発揮している 法人作成の「園長・主任・副主任の役割と任務」や就業規則に経営層の役割が明記され、新入職員オリエンテーションや職員会議等で経営層は職員に説明している。また、年度ごとにその年の課題を抽出した運営方針を作成し、3月に総括とともに新年度の運営方針を職員と確認している。園長は職員との職員面談において、職員に書かせた自己評価表を基に受講すべき研修を推奨するなど、人事評価・教育、園業務の統括、対外関係等にリーダーシップを発揮している。	
	職員会議での意思決定過程を職員や保護者に周知し、透明性を図っている 重要な案件は法人経営会議、運営会議、職員会議を経て決定され、職員に周知している。リーダー会議での決定事項は各リーダーが各部署に持ち帰り職員に周知している。当園では会議の持ち方を見直し、職員会議の時間を長くして職員が自由に意見を述べ、情報交換をし、研修報告等ができるようにしている。保護者に対しては職員会議での重要な決定事項や決定経緯を運営保護者会や保護者会で説明しており、その他、園だよりや掲示、通信アプリでの配信により周知している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>職員とは園長の職員面談等において、意向や要望、希望等を把握している</p> <p>懇談会、行事後や年末におけるアンケートにより、保護者からの意向やニーズを把握して職員と話し合って意向に沿うよう務めている。例えば写真販売をインターネットでもできるようにしたり、布団をマットレスに切り替えることを検討をしている。職員とは園長(昨年は法人理事長も同席)が職員面談において面談シートや自己評価表等で意向や要望、希望等を把握している。その中で検討すべき事項は、運営会議や職員会議等で話し合い、課題を抽出している。</p> <p>地域会議や地区園長会等の会議に参加して福祉事業全体の動向等の把握に務めている</p> <p>園長が地域会議や地区園長会、都福祉協議会等の会議や研修に参加して地域の福祉の現状や福祉事業全体の動向等の把握に務めている。例えば事業継続計画(BCP)の策定に当たっては、BCP・安全計画作成の研修から得た知識を反映している。地域のニーズにより、園庭開放や起震車体験等の地域子育て支援事業を施行している。また、福祉事業の人材の確保難という現状に鑑みて、職員の定着を図るために職員が音楽や運動遊び、英会話等の得意な分野を保育の中で活かした取り組みをしている。</p> <p>長期計画を踏まえて今年度事業計画、各単年度計画等が策定されている</p> <p>法人は2021～2027年度までの長期計画を策定している。その中で法人を取り巻く外部分析と、法人としての職員の育成や法人のもの3保育園(当園を含む)の安定した運営と経営基盤づくり等4つの目標を掲げている。当園が区の民間委託受託が決定したことで、長年の受託活動が実を結び、長期計画の目途ができた。なお、達成すべき理念の明文化が望まれる。長期計画を踏まえて、全体的な計画や今年度事業計画、各単年度計画が策定されている。民間委託後2年目ながら運営方針の一つ一つを着実に施行している。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ3の講評

職員が守るべき法や法人や園のルール、倫理等は運営規定等で周知している
職員が守るべき法(個人情報保護法等)や法人や園のルール、倫理等は就業規則や運営規定に明記しており、事務所にファイリングされ、誰でも閲覧できるようになっている。職員は入社時に説明を受け、定期的に法人研修や外部研修で子どもの人権等について学んでいる。全国保育士会が作成した倫理綱領の掲示や、経営層による知識確認のための簡単な問いかけ等も理解が深まる取り組みとして検討の余地があると思われる。

保護者の意向は、様々な手段で把握し、会議で検討した結果を速やかに知らせている
意見や苦情収集のために玄関に意見箱を設置したり、オンブズマン制度についての掲示がある。苦情・相談があった場合は緊急運営会議を開き対応を検討したり、場合によっては職員会議や理事会で対応策を決定し、内容を当該利用者に電子配信システムで配信したり、文書やお便りで知らせている。運営保護者会での意見に関しては、父母の会に回答を事前に説明したり、場合によっては個人面談で説明するなど、できるだけ早急な対応に努めている。

地域の諸会議から地域の福祉ニーズを把握し、出前保育等の地域貢献の取り組みがある
園長は区立園長会や地区園長会、地域会議等に参加して地域の福祉ニーズを把握し、園の専門性を活かした児童館への出前保育や育児講座、AEDの設置等の地域貢献の取り組みをしている。また、地域子育て支援事業として、行事の参加呼びかけや園庭開放、見学会時の育児相談、区の育児応援券を使用しての給食や離乳食の試食ができる体験保育等の取り組みをしている。上記諸会議において共通する課題の解決に向けて研修を企画するなど、地域ネットワークで協働できる体制がある。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>人命に繋がるリスク対策を最優先として各対応マニュアルを職員会議等で確認をしている</p> <p>リスクに対しては人命につながるリスク対策を最優先として事故、災害、侵入、感染症等それぞれの対応マニュアルを職員会議等で確認をしている。毎月安全計画に基づいて乳児、幼児等の会議やリーダー会議の中でヒヤリハットや事故の報告をし、対応改善を検討している。散歩時の危険個所などのマップを作成し、職員に周知して事故防止に努めている。職員は安全計画に基づいた避難訓練に参加し、また順次普通救急救命講習や災害を含めた危機管理の園内研修を受講して意識を高めている。</p> <p>BCPの保護者にわかりやすい説明により安心感を持った保育園づくりが期待される</p> <p>事業継続計画(BCP)は区の基本案に当園が実情に即して加筆して策定している。基本方針や初動対応、ライフライン復旧までの留意事項および対応策、当園で考えた被害想定、自衛消防隊組織表の役割分担、緊急連絡先、協力先リスト、区との連携など必要な事項を網羅したBCPとなっている。ただ内容が濃く、分厚い計画書のため、職員調査でも理解度が高くない。職員や保護者に対してもわかりやすい説明を工夫し、保育理念の中の「保護者が安心して預けられる」保育園づくりが期待される。</p> <p>業務のIT化が進んでいるが、基本的には情報は書類として保管している</p> <p>パソコンは事務所に12台、その他の電子機器8台が稼働しており、IT化が進んでいるが紙ベースのマニュアル等の保管が並存している。パソコンをクラスに持ち出しはできるが、パソコン内の情報は顔認証やパスワードでアクセス制限をし、個人情報等の重要情報の漏洩防止に努めている。閉園時に重要書類は鍵のかかるキャビネットで保管し、持ち出しを禁止している。園では個人情報保護方針を重要事項説明書に明記し、利用目的の明示および開示請求への対応をしている。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

わかりやすくキャリアパスについて説明・周知し、職員の意欲増進を期待したい

園が求める職責や職務内容に応じた長期的展望であるキャリアパスは、就業規則や運営規定、賃金規定をもとに毎年具体的に定められており、職員面談では対象者にキャリアパス研修を薦め、全職員が1課目、リーダー層は4課目の受講を目標に進めている。職員調査では職員のキャリアパスについて理解度が低い。職責やスキルごとの処遇がわかりやすいキャリアパスラダーの作成等で、職員会議等でわかりやすくキャリアパスについて説明・周知し、職員の意欲増進を期待したい。

園長は職員面談で職員の成果を確認し、それを全体に役立て組織力の向上を図っている

園長は公設民営化後の新園長として職員が記入した自己評価表を基に、抱いている希望や理念、園目標、保育面などへの理解度をチェックするなど、職員との定期的な個人面談を通して職員の個別研修計画を策定している。また、各クラスをラウンドし、自ら保育に入ったり、自己評価表で職員の成長、成果を確認して研修の企画者にさせるなど、職員から得たものを全体の実践に役立て、組織力の向上を図っている。また、3保育園がある法人内施設同士で職員の交換保育を実施し、保育の質の向上に努めている。

職員間の保育の方向性を一致させ、チーム力の向上に努めている

園内研修の参加者は研修報告書を提出し、法人の基の3園でクラスごとにまとめた取り組みレポートを、年1回法人主導で発表する保育実践集談会を開催している。良い気づきや工夫について自園に持ち帰り、水平展開して自園の取り組みとするなど、姉妹園の連携の強味を發揮している。また園長は各クラスでの話し合いの時間を保証し、雑談の場も作り職員間の保育の方向性を一致させ、チーム力の向上に努めている。職員調査で職員間の人間関係が良いという意見が多い。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 ・令和4年度に民間委託となり、1年目の当園は職員の入れ替わりのために保護者が不安を感じていたため、保育理念に「働く父母が安心して預けられる保育園」とあり、その達成のために、家庭との連携を強化し、保護者との対話を丁寧に行い信頼関係を深め、安心して子どもを当園に預けてもらうことを目標とした。 【取り組み】 ・保護者会ではクラスごとに日々の保育を写真や動画を交えて説明するとともに、保護者からの質問や意見に丁寧に対応した。 ・保育方針に「子どもが自己を十分に発揮しながら活動する」とある通り、子どもたちの気持ちを尊重した保育、保育園が楽しいと思う保育を実施することに務めて保護者の安心感を得られるようにした。 【取り組みの結果】 ・朝夕の受け入れや引き渡し時に保護者が笑顔で接してくれるようになった。 ・運動会のアンケートでは、子どもの望む種目を取り入れて生き生きとした姿を見て保護者が満足したという声が多かった。 【今後の方向性】 ・高評価してくれる保護者やまだ不安感の残る保護者を含め、今後も信頼関係を深めていく。 ・職員の同僚性で連携ミスが減らし、保護者支援の力を高めていく。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 民間委託1年目の当園は職員の入れ替わりのために令和4年度は保護者が不安を感じていた。そこで保護者の不安を払拭し、信頼関係を築くために家庭との連携を強化し、保護者との対話を丁寧に行い、信頼関係を深めることを、具体的な目標として設定した。この目標は、保護者と協力しながら保育を進めるという当園の運営方針にも合致する。安心して子どもを当園に預けてもらうことは、法人の保育理念でもある。上記のさまざまな取り組みの結果として、利用者調査のアンケートでは、「保育園の対応は親切で丁寧だと思う」という声もあり、保護者の信頼感醸成に成果が出ているように思われる。昨年の結果を踏まえて、次年度後も引き続き、保護者との信頼関係を深め、職員間の連携によってミスを減らして保護者支援の力を高めたい、としている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

・当園は民間委託後1年目のため、様々な保育観を持った職員が参加しており、職員間の連携を改善すべき課題があった。令和4年度の事業計画で、運営方針の中の重点課題として「職員同士の同僚性(保育者同士が互いに支えあい、連携・協力して高めあう関係)を高める」としているため、その場に応じた最善の保育ができるように柔軟な姿勢を持ち同僚性を持つことを目的とする。

【取り組み】

・連携を取りやすいようにクラス担任を法人のものと既存2園の職員と新入職員で体制を組んだ。
 ・会議の時間を増やし、情報共有の場等を意識して作った。各リーダーの役割を明確にし、リーダー中心に小グループを構成して連携を図った。

【取り組みの結果】

・会議で積極的に発言したり、リーダーとして力を発揮する職員が出てきた。
 ・園の方針等に応じた保育の考え方に統一性が出てきた。

【今後の方向性】

・令和5年度は非常勤職員にも運営方針や事業計画等を配布し、職員のチーム力を高め園の方針のもとに質の高い保育を提供していく取り組みをする。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員が場に応じた柔軟な姿勢を持ち同僚性を持って、チーム力を高めることを具体的な目標としている。この目標は 当園が民間委託後1年目で様々な保育観を持った職員が参加しているため、職員間の連携に課題がある以上、適切な目標と考えられる。この目標達成のために、会議の時間を増やし、職員が思っていることを自由に発言できる時間や、理念・園の方針、保育上の情報共有の時間や場等を意識して作り、意識の統一を図る取り組みを行っている。取り組みの結果、リーダーとして力を発揮する職員が出てきたり、保育の方針の統一への手応えも得られるなど成果につながっている。さらに、取り組みの中で、音楽や運動遊び、英会話等の職員が得意な分野を保育の中で活かしていることは、職員の自信に繋がるなど、副次的な効果も出ている。昨年度の成果を踏まえ、今年度は非常勤職員にも方針を共有してさらに職員のチーム力を高めたいとしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>区のホームページやチラシ等で園概要等の情報をわかりやすく提供している</p> <p>区のホームページには、所在地・アクセス・連絡先・施設概要・園目標・行事・特色(園庭には、栗・ブドウ・グレープフルーツ・ヤマモモの木が植えられ季節を感じることができる。保育内容としては、職員の得意分野を取り入れ質の良い遊びに力を入れている)等の園が実施している情報が入手できる掲載となっている。チラシには、児童館で行っている「出前保育」や「子育て支援活動」が掲載されており、わかりやすく子育て世帯への情報を提供している。</p> <p>各関係機関と連携し、子育て支援や育児情報の提供と行政情報を入手している</p> <p>地域との連携は、積極的に行い園独自のチラシには手遊びの紹介・大型絵本・小麦粉粘土・遊び等の提供や園庭開放・人形劇観劇等のお誘いを掲載している。新聞の折り込みに「地域とともに子育てを」のポスターを法人が作成し、姉妹園併せて3園の情報を掲載している。子どもの園での様子や季節のレシピ、パネルシアターや園庭開放のお誘いを掲載し年3回から4回程地域に発信している。区発行の看護師による「健やか健康だより」や栄養士による「すくすくパワー」等の情報を入手して掲示や配布で保護者に情報の提供を行っている。</p> <p>利用希望者の問い合わせや園見学については、随時個々の状況に応じた対応を行っている</p> <p>園見学希望の受け入れは、日程以外にも随時受け入れを行っている。対応は園長・主任・副主任・事務職員が行い、当園の保育の特色や子どもの遊ぶ姿の説明を交えて丁寧に行っている。見学者の質問も多数あり、1・2歳児の担当制についてやリズム・運動遊び等、園のパンフレットで説明を行っている。育児体験の申し込みについて、利用者の希望に沿って案内し、併せて区の事業である「育児応援券」の説明も行い「給食試食」や「育児相談」も実施している。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>サービスの開始前には、重要事項と入園のしおりに沿って説明を行い同意を得ている</p> <p>4月入園の決定は、2月上旬頃に届いている。それ以降も随時2次3次と通知が届く仕組みとなっている。入園に関する書類は保護者が園に取りに来られるため、その時に面談やオリエンテーションの日程を確認し伝えている。オリエンテーションは、3月上旬の土曜日に園長・主任・副主任が出席して行い、園長がパワーポイントを使用して重要事項説明を行っている。併せて入園のしおりにしても丁寧説明しその後、個人情報の取り扱いに関する「個人情報同意書」を提出してもらっている。</p> <p>子どもの保育に必要な情報は、入園面接で把握し決められて書式に記載している</p> <p>入園面談では、保育に必要な情報(アレルギー・既往歴・食事・延長保育利用時間・慣れ保育について等)を聞き取り子どもの情報や、保護者から出た質問については、児童調査票に記録している。1歳児の面談には、栄養士も出席して食事面(アレルギー・食事の形態・離乳食の進み具合等)について慎重に聞き取りを行っている。個人面談で得た情報については、3月の職員会議の中で全職員と共有を図り記録については、事務所の鍵付きスチール棚に保管してあるので、必要に応じて確認することができる。</p> <p>入園後は、子どもの不安解消に努め保護者の意向に沿って慣れ保育を行っている</p> <p>当園は1歳児園なので、22名の子どもが4月に入園する。入園後は不安を抱え保護者と離れるため自分の気持ちを泣いて表現するので、不安を少しでも和らげるために、保育体制を手厚くして園全体で応援体制をとっている。保育者と子どもの信頼関係を作るために、1歳児保育は担当制をとっており、少人数のグループに分かれた保育を行い、同じ大人と関わりながら子どもの不安解消に努めている。慣れ保育については、子どもの様子や保護者の状況に併せて双方で相談しながら、子どもの負担にならないように保育時間を延ばし慣れ保育を行っている。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

保育をする上で、必要な情報は定められた様式に記録し把握している

1・2歳児は、連絡帳(電子媒体)を使用し1日の様子や食事・睡眠・排せつ・身体計測等の記録を行い、家庭と共有し子どもの生活状況を把握することに努めている。幼児クラスについては、身体計測は健康カードに記録し家庭と連携して子どもの成長を見守っている。クラスごとに登降園確認表を設けているので、朝の検温・保育時間・登降園時間を「申し送り」に記入し、一人ひとりの状況を把握している。個人面談は、3週間程の期間を設定して年1回実施し記録を児童票に閉じ保管している。面談で把握した内容は、各会議の中で職員間の共有を図っている。

全体的な計画を基に、年間・月間計画を作成し定期的に見直しを行っている

園独自の全体的な計画は、運営会議(園長・主任・副主任)で作成し、3月の職員会議の中で全職員が内容の確認を行い、周知徹底を図っている。全体的な計画を基に年間指導計画(年間目標・養護と教育・環境構成・援助・長時間保育・食事・家庭との連携等)を作成している。1・2歳児は、個別の指導計画を作成し子どもの育ちを細やかに捉えている。要支援児に関しては、個別支援計画(生活・運動・人間関係)を作成し毎月保護者面談を行い子どもの姿を共有し、家庭生活や保育に活用している。年間・月間指導計画は、四半期また期ごとに反省している。

子どもや保護者に変化があった場合は職員で共有し、子ども理解に努めている

園での子どもの様子や家庭での姿・保護者の変化については、各クラスの「申し送り」の中に記録して、乳・幼児会議や職員会議の中で議題にのせて職員間での共有を図っている。職員連絡ボードは、事務所に設置しているのでボードにも毎日記入して職員間での捉え方に違いが出ないように工夫をしている。子ども一人ひとりを正しく理解するために、会議(乳児会議・幼児会議・職員会議)の中で職員が事例を持ち寄り対応トレーニングを実践したり、研修受講者が講師になり15分から30分程発表していき、子ども理解に繋がる取り組みを行っている。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>子どもの人権やプライバシー・羞恥心に配慮した保育を行っている</p> <p>子どもの人権については、「子どもの権利担当」2名が配置されているので、中心となりながら園内研修を実施し、年間通して検討する機会を設けて、外部講師を招いて勉強会を実施する等、職員の意識づけを行い保育実践に取り組んでいる。法人の中で、各保育園の子どもの人権に関する事例を持ち寄り検討する仕組みがあり、検討された内容は職員会議の中で全職員に周知され共有している。子どものプライバシーや羞恥心については、排せつの場面はトイレ奥で人の目に触れないような工夫をしたり、夏場のプール時や身体計測等男女分けた保育を実践している。</p> <p>日常の保育の中で、子ども一人ひとりを尊重した保育を実践している</p> <p>プライバシー保護に関しては、園内研修や自己評価表の項目に取り入れ常に意識した保育を行っている。保育実践の中では、朝の会や帰りの会の中で、子ども一人ひとりの意見や発想・気持ちに寄り沿った保育体験を積み重ねていき、ダンス・製作・リトミック等を通して、自己表現する機会を大切に保育実践を取り入れている。1歳児は、保育室前のベランダや園庭(1歳児専用の砂場やスペース)を活用して、子どもが安心して気持ちよく過ごせるように、保育者とのコミュニケーションを取りながら子どもの気持ちに寄り添った保育を行っている。</p> <p>虐待防止や不適切な保育についての研修に参加して、受講内容を職員間で共有している</p> <p>虐待については、児童虐待マニュアルに応じた保育を職員が意識できるよう、リーダー会議・乳幼児会議・職員会議の中で子どもとの関わりを振り返る機会を設けている。理解しやすいように事例を通して学ぶ機会を作り「不適切な保育」「子どもへの声掛けの仕方」「子どもとの関わり方」について具体的な話し合いを行っている。社会的な状況や虐待にかかわるニュースも、随時タイムリーに発信していき職員間で共有を図っている。欠席した職員に関しても、会議録に目を通し名前にチェックを行い全職員で共有する仕組みが整っている。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>法人で策定した共通のマニュアルや園独自の手引書を整備して活用している</p> <p>業務の標準化を図るために、法人で策定している共通のマニュアルの中で園運営に関する業務が明確になっている。当園は公設民営になり2年目であるので、法人理事長が園長の補佐を行い、課題の抽出や対応策等に力を注いでいる。専門的な力の向上や専門担当者を位置づけ、全職員が一丸となり業務に向き合う仕組みが整っている。各種マニュアルは、職員一人ずつに配布したり事務所内に保管しているので、困ったときには手に取り確認することができている。園独自の手順書についても、早番や延長時に鍵の開け閉めや業務内容等の整備がされ活用している。</p> <p>業務マニュアルや行事の見直しは、必要に応じて見直しサービスの提供を行っている</p> <p>日々の保育に関わるものについては、随時見直しを行い改善を図っている。改善された変更点については、職員会議や園長が個別に経緯や変更点の説明を丁寧に行っている。運営保護者会は定期的に開催し、運営に関する質問や意見を収集したり玄関に設置されているご意見箱に入っている意見を大事に受け止め検討見直しを行っている。今年度はクラス帽子の色についてや4・5歳児が使用している布団をマットレスに変える等の意見が寄せられているので、前向きに検討を重ね、布団に関してはマットレスに変える方向で進めている。</p> <p>業務マニュアルに沿って、救急対応や衛生面の徹底を図り取り組んでいる</p> <p>業務マニュアルに沿って緊急時の対応(アレルギー児・熱性けいれんの対応等)や感染症(ヘルパンギーナ)が急増したため、保健所に報告し連携を図りながら対応を行ってきた。7月には緊急時対応として、AEDを取り入れた講習を行い子どもの命を守る取り組みの実践を行い重ねている。今年度は園独自の「安全計画」を作成し、安全点検重点箇所・安全教育・登降園管理・避難訓練について・職員の研修や講習・地域と連携した取り組みの項目で作成し全て網羅されている。内容については、会議の中で読み合わせを行い職員への周知徹底を図っている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている <p style="text-align: right;">評点(○○○○○○)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
<p>一人ひとりの子どもの全体的な姿を把握し、主体的な遊びが展開できるよう工夫している</p> <p>子どもの全体的な姿は、入園前面談の中で成育歴や食事・既往歴・睡眠等を聞き取り児童票に記録したり入園説明で把握する他、入園後には送迎時の保護者との会話や連絡帳・個人面談の中で把握し、保育日誌や児童票に記録している。乳児クラスは、コーナー設定を行い子どもが少人数でじっくりと好きな遊びができる環境に力を入れている。保育内容も少人数のグループ保育を実践して、子どもの興味や姿・言葉を聞き逃すことなく一人ひとりが満足できる遊びの提供を行っている。遊べない子どもに対しては保育者が関わり、遊びの援助を行っている。</p> <p>縦割り保育(異年齢交流)を通して子ども同士が育ちあう保育実践を行っている</p> <p>全園児の子どもが、自然に異年齢の関わりが持てるよう「異年齢保育年間計画」を作成し(年間目標や環境構成・期ごとのねらいや配慮)子ども同士が育ちあう保育を展開している。幼児クラスは、3歳児・4歳児・5歳児が3人グループを作り毎月特別感が味わえるような遊びや行事に取り組んでいる。3歳児は年上の子どもから優しく助けってもらったり、4・5歳児はできないところを手伝ってあげることで認められ、共に成長できる保育を実践している。玄関には「今日の保育」や縦割りメンバーを掲示して、保護者に保育が見えるように発信している。</p> <p>特別な配慮が必要な子どもについては、集団生活の中で共に育ちあえるよう援助している</p> <p>要支援児に対しては、「個別の支援計画」を作成(生活・運動・人間関係)したり、個別の指導計画(ねらい・配慮・評価反省)を作り、子どもの姿を様々な角度で捉え、正しく理解することに努めている。集団生活の中では、クラスの一員として無理なく友達と関わりを持てるように、保育者の援助のもと参加している。興奮したり興味のない活動に関しては、同じ保育室の中で過ごしたりパニックになった時にはクールダウンできる場で、気持ちを落ち着けられるような援助を行っている。毎月1回保護者との面談を行い、子どもの姿を共有している。</p>	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には、保護者との会話や連絡帳を通して子どもの様子や生活の変化を捉えている 登園時には、早番職員や担任が家庭での子どもの様子や体調の変化等を連絡帳や口頭で確認している。連絡帳(電子媒体)は1・2歳児が使用しており、事前に保護者が入力したものを確認していきながら園での様子等を記入し双方でやりとりを行っている。口頭で保護者より聞いた内容については「申し送り」や職員連絡ボードに記録し職員間での共有を図っている。職員の出勤時には、必ず連絡ボードを見て子どもの状況や家庭状況の変化を把握し当日の保育に活用している。</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向けては、保護者と連携しながら無理のないように進めている 基本的な生活習慣の自立に向けては、家庭の様子や保護者の考えを尊重していき、子どもに無理のないよう配慮しながら進めている。排せつの自立に向けては、1歳児クラスよりトイレトレーニングを行い、子どもの様子を見ながら午睡後に失敗がなければ便器に座るところから始めている。排せつの感覚も個人差があるので、一人ひとりの排尿間隔を把握しながらすすめている。4歳児頃から箸の練習をはじめているが、遊びの中で箸を使ってつまんでみたり、保護者と相談しながら箸とフォークの両方を準備していき無理なく援助している。</p> <p>降園時には、担任や当番者に引き継ぎ伝達ミスのないように伝えている 園での子どもの姿は、連絡帳や幼児クラスは玄関に「今日の保育」を掲示して保護者に日中の活動を知らせている。連絡帳には、睡眠や食事の様子・遊びの姿や変化のあった事項を細やかに記入している。降園時には、子どもの変化があった様子を、必ず申し送りの中に書き込み当番者が伝達漏れがないように注意して伝えている。万が一伝え忘れがあった場合には、担任より家庭に連絡を入れている。また、怪我や体調の変化等伝達の内容によっては、担任が残り直接保護者に経緯や原因・その後の園での対応等、丁寧な説明を行っている。</p>		

3 評価項目3		標準項目	評点(〇〇〇〇〇〇)
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			
評価			
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p>子どもが主体的に遊びを展開できるように、環境構成に工夫をしている</p> <p>子ども自らが楽しく遊べるように、1・2歳児室にはコーナー設定を行っている。それぞれ22名という大きな集団なので、玩具の量や質・種類に工夫していき、ままごと・ミニカー・ブロック・手先の遊び等を充実させていき、遊びが広がる工夫の中で「楽しい」と思える環境構成に努めている。子ども自身が選んで出し入れしやすいように、写真を貼り玩具の場所を決めている。担当制保育を行っているので、同じスペースに集まり密にならないよう配慮した保育を行い、子どもの遊ぶ姿を観察して興味や求めているものは何か探りながら見守る保育を実践している</p> <p>子ども一人ひとりが、言葉による自己表現ができる保育を展開している</p> <p>幼児クラスは、朝の会や帰りの会の中で、子ども一人ひとりが自分の言葉で気持ちを表現する保育を大事にしている。3歳児には、なにが楽しかったのか質問して言葉を引き出すように配慮している。4・5歳児は、めいめいに自分の気持ちを表現でき子どもから発信できるよう見守っている。グループを作り自分達でグループ名を決め、遊びや育てる野菜を話し合っ決めて活動等を行っている。1・2歳児は言葉で表現できないので絵本や紙芝居・手遊びを取り入れ、オノマトペ等(自然の音・動き等を象徴的に表す語)擬音を使い表現できる保育を行っている。</p> <p>戸外遊びを積極的に行い、身近な自然に触れ季節を感じる保育を行っている</p> <p>散歩先では、体を思いっきり使うルールのある遊び(ケイドロ・鬼ごっこ・的あて等)を友達と一緒に楽しんだり、園庭ではタイヤのバランス遊びや運動遊び(大縄跳び・鉄棒)を楽しんでいる。広い庭には、ブドウやヤマモモ等実のなる木も植えてあるので、落ち葉や実を集めてままごとに使ったり虫探し等で遊び、変わりゆく季節を感じながら友達と遊んでいる。散歩先で拾った落ち葉やドングリは、園に持ち帰り制作活動につなげ、ローラーで版画のように写し出したり、子どもの発想を大事に捉えた保育を行っている。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの興味関心を捉え、子ども自らが進んで行事に取り組める工夫を行っている</p> <p>行事を実施する上で大切にしていることは、行事のための出し物ではなく子どもが日常的に遊んでいる遊びを取り入れ、子どもが負担を感じないように工夫している。運動会は、地域の小学校の校庭で実施し今年度までは、クラス毎に競技や演技を行った。種目は大縄跳びや走り縄跳び・跳び箱等の運動遊びを中心に、子どもの意見やアイデアを取り入れながら構成して大好きな忍者のダンスやソーラン節の踊り等に取り組み、自分らしさを表現することができた。</p> <p>皆で協力して様々な行事を行い、達成感や喜びを感じられるようにしている</p> <p>幼児クラスの中には、グループがあり協同的学びを大事に捉え皆で力を合わせる活動に取り組んでいる。夏まつり等の行事の前には、皆で意見を出し合い「自分たちで決めた・力を合わせてできた」という気持ちを育む活動を大事にして、子どもの達成感やできた喜びを感じられる保育を実践している。年末お楽しみ会では、プレゼント探しをするためにプレゼントの制作をしたり、ゲームの内容も子ども達が意見を出し合って考えたものを、保育の中に取り入れ工夫した保育実践を展開している。</p> <p>保護者の協力が得られるよう保育の見える化を行い、迅速に知らせている</p> <p>年間行事予定は、4月に配布し保護者に知らせ、毎月の園だよりやクラスだよりで内容の詳細や、行事に向けての子ども達の活動の様子を掲載している。また玄関に掲示している「今日の保育」でも日々の子どもの活動や話し合っている姿が伝わるように、保育の見える化に取り組んでいる。保護者参加の行事の後には、事後アンケートをお願いして保護者の意見や感想を聞き、出された意見に関しては、園内で検討を行い次回の行事に反映させるように取り組んでいる。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育の子ども達が、くつろいでほっとできる保育環境になるように配慮している</p> <p>長時間保育を利用する子ども達は増加の傾向にあり、より一層保育室の環境には配慮を行っている。一日の疲れも増しケガが多くなる時間帯だけに、安全保育を第一に考え安心してゆったりと過ごす工夫を行っている。ままごとコーナーには、マットを敷き横になりくつろげる場所を作り、延長保育の固定職員が1名専任しているため、子ども達の動揺を和らげ安心して過ごしている。長時間保育の計画があり(全体的な計画・年間・月間指導計画の項目にあげている)計画を基に保育をしている。子どもの遊びや特記事項は日誌に記録し翌日の保育に活用している。</p> <p>合同保育に移行する時間帯も楽しく過ごせる工夫を行っている</p> <p>朝の保育は、7時15分から8時30分まで乳児と幼児に分かれ、8時30分からクラス保育となる。夕方の保育はクラス保育から、4・5歳児は5時30分に合同保育、1・2歳児は5時45分に合同保育、6時になると幼児クラス合同保育となる。6時20分頃に延長に入る子ども達は捕食を食べ、ほっとして気持ちが切り替わる時間である。延長専用の玩具が、ワゴンの中に用意されているので、子ども達にとっては延長の時間に自分たちが遊べる玩具があるという特別感を持つことができる。玩具の入れ替えも四半期毎にフリー職員と主任が行い整えている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>喫食状況の把握や味付けに工夫を凝らし、子どもがおいしく食べられるようにしている</p> <p>1歳児クラスはグループ(少人数保育を実践)毎に分かれ、いつも決まった担当の保育者と食事をしている。2歳児クラスは、ランチルームを利用して、子どもの身長に合わせた椅子とテーブルを使用し落ち着いた雰囲気の中で食事している。足の裏が床についているので、姿勢が崩れないような配慮を行っている。手づかみや食具を使い意欲的に食べることを尊重し、ある程度食べ終わると介助を行う。毎日栄養士が残食を見るために巡回を行い、子ども達の喫食状況を把握して、月末には給食会議を行い次月の味付けや量に反映させている。</p> <p>アレルギー食の提供については、細心の注意を払い誤食防止に努めている</p> <p>アレルギー食の提供については、年1回受診し医師による「アレルギー指示書」に基づき、除去食を提供している。毎月月末に保護者と面談を行い、次月の献立の確認を行っている。出来上がった給食はトレーに乗せ、担任が受け取りに行き献立の確認を行い、保育室でも他の職員と共有し確認して提供をしている。アレルギー児の対応は、クラスにマニュアルやアレルギー児の一覧表を掲示し日々確認を行い、誤食がないように一人机を用意して、傍に保育者がつき孤独を感じないように食事の介助を行い誤食防止に努めている。</p> <p>年間食育計画に基づき、食に興味や関心が持てる食育活動を行っている</p> <p>年間食育計画は、行事食・献立のテーマ・食育のテーマ・ねらい・取り組みと配慮・食育内容等に分かれた計画を作成している。各クラスのベランダ前には、プランターを置き夏野菜のナス・キュウリ・ピーマン・オクラ・ベビーコーン等が植えられ、子ども達は、日々水あげを行いながら野菜の成長に関心を持って世話をしている。食育活動として野菜の下処理を手伝ったり収穫後は給食室に運び、その日の給食に出してもらい、味わっている。また、年に1回魚屋さんによる「たこ」「鮭」等の解体ショーを見せてもらい食に関心が持てる取り組みを行っている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>健康教育を通して、子どもが安全や健康に関心が持てるように援助している</p> <p>年間保健計画を作成し、子どもの健康管理には十分に配慮した対応を行っている。特に新入園児は、集団が初めてなので感染症にかかりやすく疲れから発熱も増えるので、朝の受け入れ時には子どもの様子を注意深く視診を行い子どもに負担がかからないよう配慮し、1日を通して健康管理を行っている。園内での感染症の予防として、子どもに戸外から帰った時・トイレ後・食事の前の手洗いの仕方について、看護師も指導を行い、菌が入るとどんな症状になるのかや「体の仕組み」について話す等、丁寧な個別指導を行っている。</p> <p>嘱託医による健康診断の実施や関係機関との連携を図り、子どもの健康管理に努めている</p> <p>嘱託医による定期健康診断と歯科健康診査は、全園児対象にそれぞれ春と秋の年2回実施している。健診後に嘱託医からの指導や受診が望ましいと伝えられた場合には、看護師が直接保護者に伝えて、受診後の経過等も確認している。また、身体計測は、毎月行い児童票に記録して保護者にも伝えている。保護者から健康面の相談を受けた際には、丁寧な説明や助言を行っている。職員会議の中で、園児の健康やアレルギー児に関する情報を全職員で共有し、対応できるよう周知徹底を図り子ども一人ひとりの健康管理に努めている。</p> <p>SIDSの予防や感染症の情報は、随時保護者に知らせ注意喚起を行っている</p> <p>SIDS(乳幼児突然死症候群)の予防については、入園時に保護者に説明を行い午睡中の子どもの安全を守るため「午睡チェック表」に記録している。1・2歳児は10分間隔、幼児クラスは15分間隔で健康チェックを行っている。(室内の温度・湿度・採光・体温・子どもの顔色・呼吸状態)うつぶせ寝や横向きの子どもは、仰向けに体位を変えて細やかな注意を払っている。また、感染症情報については、日付と感染者数・病気の特徴等を書き込みタイムリーに玄関掲示板やクラス前のボードに貼りだし、保護者への注意喚起を行っている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当	
評価項目8の講評			
<p>保護者の就労状況や個々の事情に応じた支援ができるよう努めている 玄関の掲示板には、延長保育のスポット利用枠の掲示が出ているので、保護者が利用しやすい環境を作っている。急な残業や交通機関の乱れで遅くなる場合には、電話でも受け付けを行っている。延長保育の利用については、入園時に重要事項説明に沿って説明しており急な対応でもできる限り捕食の提供を行っている。送り出しの時には、担任から子どもの日中の様子を伝え保護者と話す機会を持ち、相談がある場合には面談の機会を設け、個々の事情に応じた支援ができるように努めている。</p> <p>懇談会や運営保護者会で、保護者と協力し、信頼関係を築けるようにしている 保護者会では、園での様子や集団の中で育つ目安を年間指導計画を基に、プレゼン用ソフトや動画でより分かりやすく知らせている。月間指導計画は、毎月発行のクラスだよりの中にも記載してお伝えしている。保護者会では、グループに分かれ保護者同士が話し合える時間を取り、同年代の子どもの様子を知ることができたり、育児の悩みを相談できる機会を設けている。参加後には、アンケートを依頼して保育に対する意見や感想を参考にし、クラス運営に反映している。運営保護者会でも、運営に関する意見を聞き双方で協力できる体制を作っている。</p> <p>園からの各種お便りを通して、園理解や子ども理解に繋がるよう工夫している 6月に「育児講座」を開催してホールで救命講習を実施して園理解に努めている。地域の子育て家庭や保護者の参加もあり、地域に密着した園作りへの理解に繋げている。毎月発行の園だよりやクラスだより・行事に向けてのお便りを電子媒体も利用して、保育の取り組みや運営に関するお願いを配信しタイムリーに情報の発信を行っている。玄関に掲示している給食コーナーには、魚のクイズをだして、めくると正解がわかるものや、写真カードの掲示・人気の献立を知らせたり、給食のレシピを置き自由に持参できる形で食事の情報を伝え子ども理解に努めている</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当	
評価項目9の講評			
<p>地域資源を活用して、子ども達が色々な経験を通して成長できる保育を行っている 図書館で開催される「お話し会」に参加したり、近隣の老人施設との交流を図っている。4・5歳児がお話し会に参加して、公共のルールを守りながら楽しめる経験や、年長児が運動会で行った「ソーラン節」をお年寄りに披露して元気になってもらう交流を行っている。自分たちの姿を見て喜んでもらえる体験は、心の成長に大きく影響している。また、10月末に実施した「交通安全教室」では、警察官に來園して頂き交通ルールや危険から身を守る行動の話の聞き、心に響く経験をする機会を設けながら、成長に繋がる保育を実践している。</p> <p>地域の方々を園に招き、子どもが職員以外の人と交流ができる場を設けている 年3回から4回発行している「地域とともに子育てを」を新聞の折り込みに入れ子育て支援情報を発信したり、児童館での「出前講座」「子育て支援活動」のチラシを配布して、園の行事(パネルシアター・園庭開放)にお誘いしている。職員以外の地域の親子や魚屋さん・児童館の職員や保育実習生等と交流する機会を設け、体験を通して子どもの育ちの援助を行っている。また今年度は「小学1年生の集い」を11月に予定しており、年長の担任が計画を作成し午後1時30分から4時頃まで交流する機会を設け、子どもの経験の場を広げる取り組みを行っている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	職員間の保育の方向性を一致させ、チーム力の向上に努めている	
内容①	民営化後の職員の連携を取りやすいようにクラス担任を法人の基の既存2園の職員と新入職員で体制を組んでいる。また、会議の時間を増やし、情報共有の場等を意識して作ったり、各リーダーの役割を明確にし、リーダー中心に小グループを構成して連携を図っている。また園長は各クラスでの話し合いの時間を保証し、雑談の場も作るなど職員間の保育の方向性を一致させ、チーム力の向上に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもの生活がより豊かになるため静と動に分けた遊びが展開できるよう取り組んでいる	
内容②	園庭に朝夕出る機会を設け、タイヤのバランス遊び・縄跳びや鉄棒等の運動遊びをしたり、公園では思いっきり体を動かしてケイドロや鬼ごっこ等、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わっている。室内遊びでは、子どもの発想を尊重した廃材遊びや落ち葉やどんぐり等自然物を利用した遊びを取り入れ、子どもの作品は大切に飾り興味や感心が広がるように工夫を凝らしている。幼児クラスの縦割り保育(異年齢の3人グループ)を作り、子ども同士で育ちあう力(優しさや憧れの気持ち等)を引き出す活動を日常の中で積み重ね、体と心の育ちを育む保育を展開している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域資源を活用して、子どもの生活体験が広がる保育実践を積み重ねている	
内容③	地域情報をタイムリーにキャッチし、4・5歳児が図書館の「お話し会」に参加して興味や関心もてる活動を行っている。近隣の老人施設を訪問し5歳児が運動会で行った「ソーラン節」の踊りを披露する活動を通してお年寄りの方々に喜んでもらえ、子ども達も満足感や喜びを味わえる体験を行っている。地域の人材を活用して、警察官による「交通安全の約束」の話を伺い心地よい緊張感の中で安全について知る機会となっている。また、劇団の方に人形劇を見せてもらう等、特別感を味わえる体験を通して子どもの生活の幅を広げる保育を実践している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの年齢や発達に合わせた活動の一つに、縦割り保育(異年齢交流)を取り入れ子どもの育つ力を大切に捉えて保育実践に取り組んでいる
	内容	全クラスの「異年齢保育年間計画」を作成し、交流のねらいや保育者の配慮を記入したものとなっている。幼児クラスは、3歳児・4歳児・5歳児の3人で1つのグループを作り、仲間意識も生まれ遊びを共に行っている。毎月行われる誕生会の後に、ホールで交流の場を設け縦割り保育を実践する中で、子どもの見えない心の育ちを育み、3・4歳児は5歳児に憧れの気持ちを持ち、遊びの伝え合いが見られている。また、5歳児は、小さい子どもに対して思いやりや優しさが育ち、グループでの遊びを大切に捉えた保育実践に取り組んでいる。
2	タイトル	野菜の栽培やクッキングを通して、子どもが食に対する関心を深められるように、食育活動に取り組んでいる
	内容	庭にプランターを置き、子ども達が話し合いで決めた野菜を栽培している。夏にはキュウリやナス・ピーマン・オクラ・ベビーコーン等の栽培を行い、毎日の水やり活動を楽しんでいる。葉が大きくなったことや花が咲いた・花の後に実がなると成長を楽しみながらお世話をしている。自分たちで育てた野菜を給食室で調理してもらい、給食に出た時には、感激も大きく野菜が苦手な子どもも一口食べている。タコや鮭の解体ショー(魚屋さん)の迫力を感じたり、クッキング活動では、食材の匂いや手触りに触れ食に対する関心が深まる取り組みを行っている。
3	タイトル	地域子育て支援事業として見学会時の育児相談や給食の試食ができる体験保育等の取り組みをしている
	内容	保育目標や運営方針に明記しているように、地域の子育て支援の核となり、地域の子育て力を高めていくために、園長は区立園長会や地区園長会、地域会議等に参加して地域の福祉ニーズを把握し、園の専門性を活かした児童館への出前保育や育児講座等の地域貢献の取り組みをしている。また、地域子育て支援事業として、行事の参加呼びかけや園庭開放、見学会時の育児相談、区の育児応援券を使用しての給食の試食ができる体験保育等の取り組みをしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	運営方針や園目標への意識をより喚起し、PDCAが理念達成のための方策であることを理解する取り組みを期待する
	内容	基本理念、運営及び保育方針、園目標等は入職時研修で説明しており、事業計画や全体的な計画の説明の際にも職員に対して説明している。ただ、職員調査でも職員に理解させる取り組みや職員自身の理解度に対する評価はさらに高めることができる。運営方針や園目標は玄関の上部に小さい文字で掲示しているが、今以上に読みやすくし、職員などの目にすぐ留まるような掲示の工夫が期待される。事務室やクラスに理念等を掲示し、PDCAが理念達成のための方策であることを職員が理解する取り組みを期待する。
2	タイトル	民営化後の保護者の保育方針等の継続性に対する不安払拭にさらなる丁寧な対応が期待される
	内容	令和4年度に民間委託1年目の当園は職員の入れ替わりのため、保護者が保育方針等の継続性に不安を感じていた。そのため保育理念の「働く父母が安心して預けられる保育園」を目指して、家庭との連携を強化し、保護者との対話を丁寧に行い信頼関係を深め、安心して子どもを当園に預けてもらうことに努めている。ただ、利用者調査で「民営化前のほうが子どもの保育内容についてもっと説明があった」という声もあり、さらなる丁寧な保護者対応が期待される。
3	タイトル	職員会議等で事業計画やキャリアパス等についてさらなるわかりやすい説明で周知することを期待する
	内容	園長は職員との職員面談において職員の自己評価表を基に受講すべき研修を推奨し、人事評価・教育、園業務の統括、対外関係等にリーダーシップを発揮している。ただ、職員調査では長期計画や事業計画への認知度や、キャリアパスについての理解度が低い。職責やスキルごとの処遇がわかりやすいキャリアパスラダーを作成したり、キャリアパスやPDCAが持つ意味を職員会議等でわかりやすく説明・周知し、職員の意欲増進を期待したい。